

2026 年 1 0 月 1 1 日 聖霊降臨節第 2 1 主日 礼拝次第

神学校日・伝道献身者奨励日・主日礼拝

前 奏 (黙 想)

招きの言葉 ダニエル書3章 17～18 節(旧約 1384 節)

讃 美 歌 281(大いなる神は)

主の祈り <A>(讃美歌93-5)

詩 編 交 読 詩37編 30～40 節(交読詩編 45 節)

聖 書 使徒言行録5章 27～42 節(新約 222 節)

祈 禱

讃 美 歌 554(神のみむねが)

説 教 「人間に従うより」 田中雅弘

讃 美 歌 508(救い主、イエスこそは)

信 仰 告 白 使徒信条<A>(讃美歌93-4)

献 金

讃 美 歌 88(こころに愛を)

派 遣 祝 福

後 奏 (黙 想)

報 告

※讃美歌は原則として全節を歌います。

聖 書 使徒言行録5章 27～42 節

27 彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。28「あの名によって教えてはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。」29 ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。30 わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました。31 神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。32 わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証しておられます。」

33 これを聞いた者たちは激しく怒り、使徒たちを殺そうと考えた。34 ところが、民衆全体から尊敬されている律法の教師で、ファリサイ派に属するガマリエルという人が、議場に立って、使徒たちをしばらく外に出すように命じ、35 それから、議員たちにこう言った。「イスラエルの人たち、あの者たちの取り扱いは慎重にしない。36 以前にもテウダが、自分を何か偉い者のように言って立ち上がり、その数四百人くらいの男が彼に従ったことがあった。彼は殺され、従っていた者は皆散らされて、跡形もなくなった。37 その後、住民登録の時、ガリラヤのユダが立ち上がり、民衆を率いて反乱を起こしたが、彼も滅び、つき従った者も皆、ちりぢりにさせられた。38 そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、39 神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。」一同はこの意見に従い、40 使徒たちを呼び入れて鞭で打ち、イエスの名によって話してはならないと命じたうえ、釈放した。41 それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、42 毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。

主の祈り A(讃美歌21 93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。
み国を来させたまえ。みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。 アーメン。

讃美歌281番

- 1 大いなる神は 世を造られ、
不滅の真理を 与えられた。
- 2 神の御言葉は 永遠の主
キリストにすべて 委ねられた。
- 3 恵みと平和を もたらすため、
王なる主イエスを 遣わされた。
- 4 神のひとり子は 人となられ、
この世の暮らしを 共にされた。
- 5 力に頼らず 恵みにより
われらの救いを かちとられた。
- 6 神は御子イエスを 与えられた。
われらを審かず 救うために。

讃美歌88番

心に愛を 豊かにみだし
日ごとのわざに つかわしたまえ

讃美歌554番

- 1 神のみむねが かたちとなって、
かたくこの地に すえられた
この日をおぼえ 感謝します。
- 2 神のことばを 語り伝えて
日々にまなびの 基とした
歴史を想い 祈ります。
- 3 愛と希望と 信仰もって
暗いこの世を 照らすため、
主イエスと共に 進みます。

讃美歌508番

(各節のはじめと3節のあとに)

- 救い主 イエスこそは
サレナム、サレナム、サレナム。
固い岩、避けどころ。
サレナム、サレナム、サレナム。
- 1 たとえ敵に囲まれても、
地の果てで弱る時も、
あなたは応えてくださる、
サレナム、サレナム、サレナム。
 - 2 主は幕屋に招き入れて、
み翼の陰に隠し、
いつも私を照らされる、
サレナム、サレナム、サレナム。
 - 3 われらの主イエス・キリストは
きのうも今日もあしたも、
永遠に変わらない方。
サレナム、サレナム、サレナム。